

国土審議会 推進部会 移住・二地域居住等促進専門委員会

STS Inc. 代表取締役

高瀬 直史

47歳

- 総務省地域力創造アドバイザー
- 一般財団法人地域活性化センターフェロー
- 高知県UIターンサポートセンターアドバイザー
- 四万十町地方創生アドバイザー
- 一般社団法人Local&community lab 理事

【経歴】

- 1976年 高知県十和村(四万十町)生まれ
- 2000年 (株)USENブロードネットワークス退社
- 2004年 (株)RKC高知放送退社
- 2004年 旧十和村役場入庁
- 2006年 市町村合併により四万十町役場職員となる
- 2021年3月末 四万十町役場退職

【実績】

- 2013年～2014年 地域づくり担当(集落活動センター立ち上げ等)
- 2013年～2021年 地域おこし協力隊業務担当(企画課→まちづくり戦略室→にぎわい創出課)
- 2015年～2021年 移住業務担当
- 2016年～2021年 シティプロモーション業務担当
- 2020年～2021年 四万十ヒノキブランディング業務担当
- 2019年～現在 一般社団法人Local&community lab 理事



▷高知県大月町職員研修

▷高知県東洋町プロモーション

▷高知県梶原町プロモーション

▷高知県津野町移住プロモーション

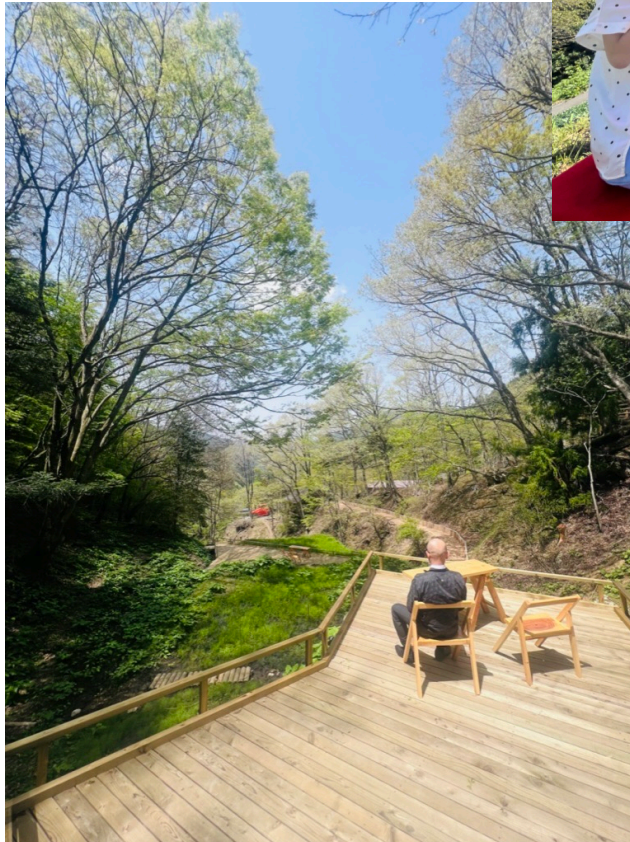
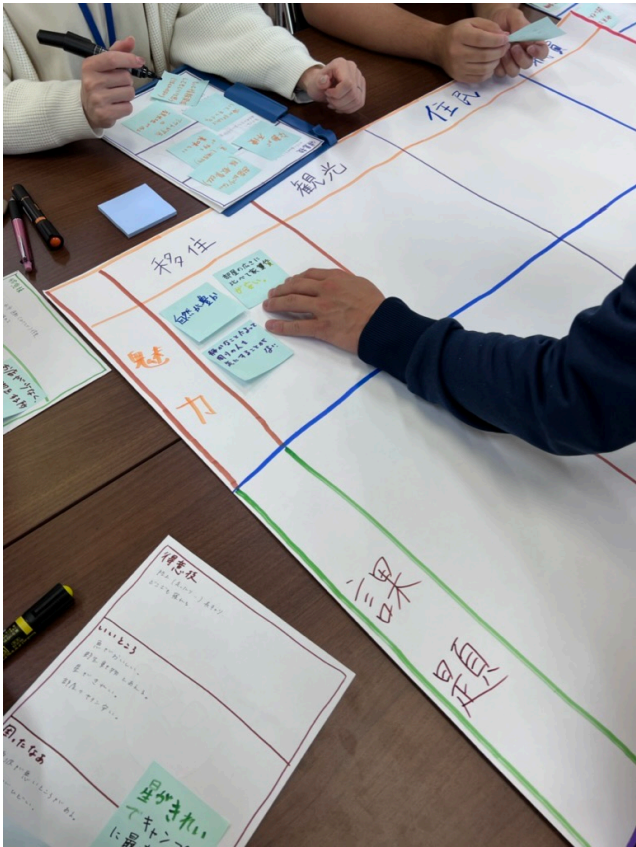
▷高知県内34市町村移住施策支援

▷高知県黒潮町観光拠点再建事業

▷店舗ブランディング

▷プロテイン商品開発

▷滞在型市民農園(クラインガルテン四万十)管理



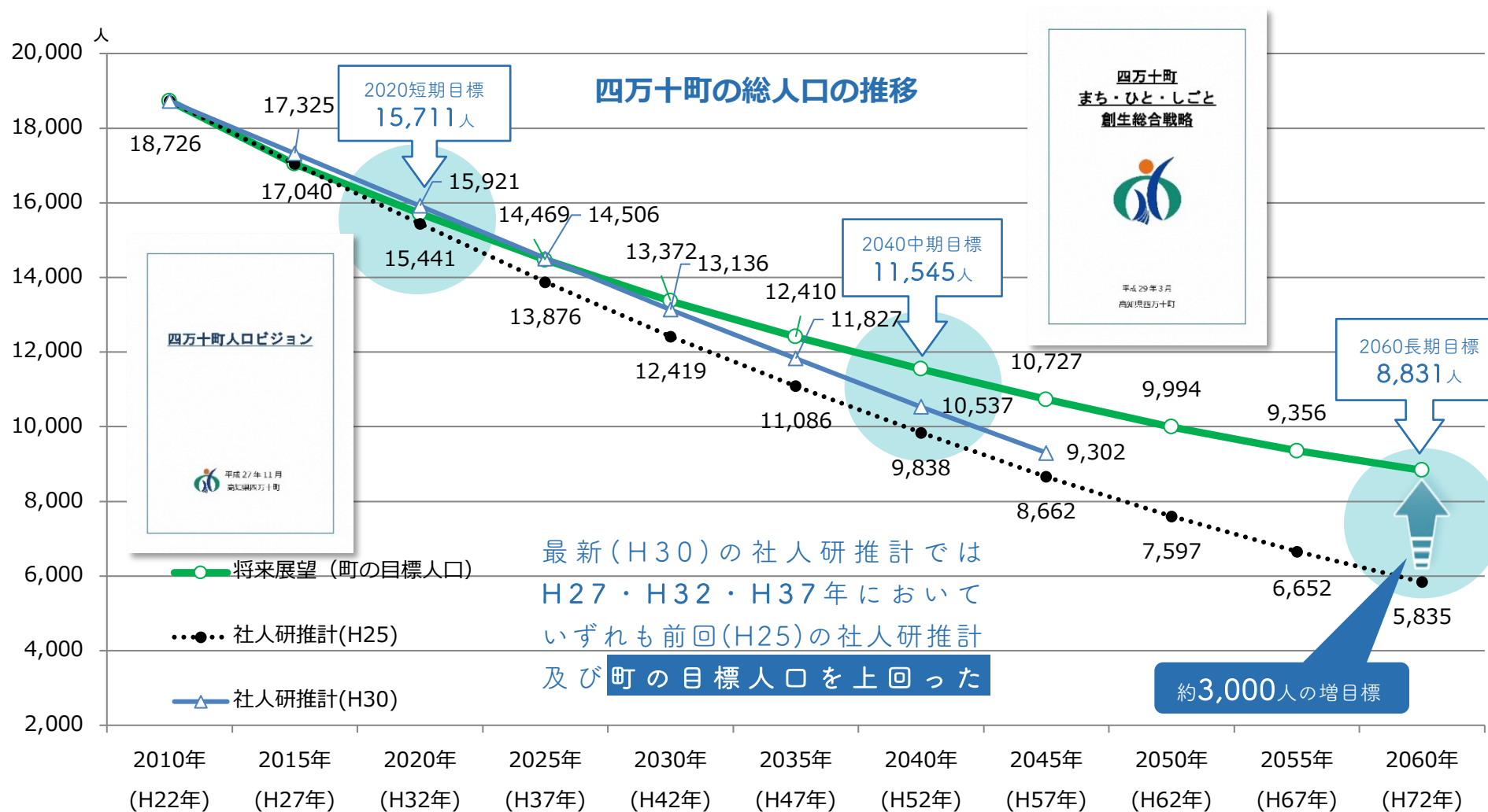
四万十町での取り組みについて

四万十町の人口

四万十町人口ビジョン / III. 本町の将来展望 / (4) 人口の将来展望 / ②短期・中期・長期の目標人口

(平成27年11月策定)

■国立社会保障・人口問題研究所(通称:社人研)が公表した推計人口の…
 「計画策定(目標設定)時における推計人口(平成25(2013)年推計)」と「最新の推計人口(平成30(2018)年推計)」の比較



にぎわい創出課 移住定住係

- ① 四万十町の魅力発信
- ② 空き家の調査・空き家情報の発信
- ③ お試し滞在施設(お試し滞在住宅、クラインガルテン四万十)の管理運営
- ④ 移住定住住宅(中間管理住宅、移住支援住宅等)の管理運営
- ⑤ 移住定住各種補助制度の整備
- ⑥ 四万十町東京オフィスの運営 (平成30年6月1日～令和3年3月31日)
- ⑦ 地域おこし協力隊全般
- ⑧ その他



① 四万十町の魅力発信



facebook 高知県四万十町 ~しあわせしまんとせいかつ~

1,933 フォロワー

四万十町フェイスブックで検索！



Instagram shimanto_town_official

7,511 フォロワー

四万十町インスタで検索！



四万十町公式YouTubeチャンネル

チャンネル登録者数 995

四万十町ユーチューブで検索！

🕒 三島の初夏 田植え



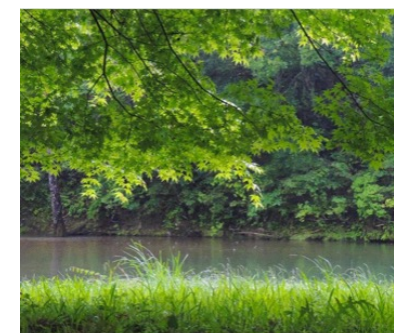
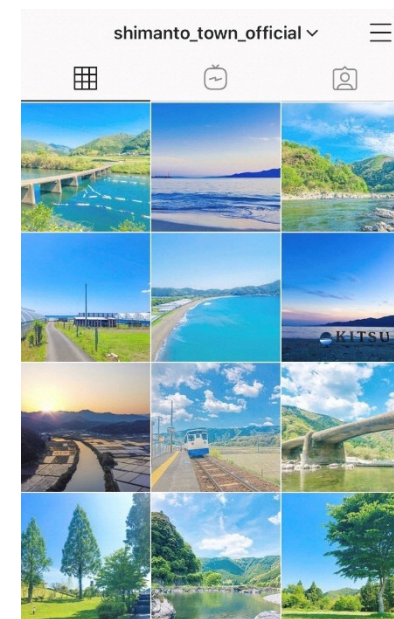
🕒 ジップライン



🕒 川遊びの楽園



🕒 こいのぼりの川渡し



インサイトを見る 宣伝

👍🗨️📍

lifeisphoto.jpさん、他454人が「いいね！」しました

shimanto_town_official 雨の中ですが、見えない世界がある。🌿

#雨の日も楽しく
#しあわせしまんとせいかつ

② 空き家の調査・空き家情報の発信

相談・情報提供

- 移住相談への対応
(移住相談員の配置等)
- 空き家調査及び情報提供
(町内不動産業者との連携)



☞ 移住相談実績

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
相談件数	50	102	134	555	701	195	227	195	200	206
うち、県外	40	80	110	263	339	149	173	134	147	116

☞ 空き家情報 (R3.03.31現在)

平成23年からの10年間で**201**件登録 (町HPによる情報提供)

▶ 全町的に**空き家調査**を実施

▶ 空き家調査結果を基にした**現地調査**

▶ 町内の**不動産業者**と連携して、不動産業者の把握する物件情報を提供



全戸数 (非木造、共同住宅は除く) : 7,397棟
 居住住宅 : 6,394棟 (未耐震 : 4,018棟)
 空家住宅 : 1,003棟 (活用可能 : 812棟)



10年間で…

201件登録



③ 移住施設 (お試し滞在住宅、中間管理住宅、移住支援住宅等) の管理運営

お試し滞在施設

• お試し滞在住宅の整備

(移住お試し用短期滞在施設)

• 滞在型市民農園の整備

(農業体験型短期滞在施設)



👉 **お試し滞在住宅**
対象者：将来移住を検討している方
利用期間：1~3か月(3戸)
 : 1~6か月(2戸)

👉 **滞在型市民農園**
入居期間：1年間(最長3年)
物件数：滞在型 22区画
 日帰り型 16区画

👉 お試し滞在住宅利用状況

年度 件数	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	R 1	R 2	計
	利用人数	5	18	20	17	15	13	8	15	12
移住実績(人)	0	6	1	0	5	8	3	6	2	31

移住希望者にとって、新たな土地へ移り住むことは期待と同時に**大きな不安**がある。



お試し滞在住宅 の整備

滞在型市民農園 の整備



短中期的に本町を体験してもらうことで、**まちの魅力を直接感じてもらう**とともに、**不安を解消し、移住のきっかけ**へと繋げていく。

4 移住定住住宅 (移住支援住宅、中間管理住宅) の管理運営

移住支援住宅

・移住定住希望者用住宅
(中長期貸付住宅)

中間管理住宅



☞ 移住支援住宅

対象者：移住希望者限定

入居期間：2年間

物件数：6戸

☞ 中間管理住宅

対象者：移住・定住希望者用

入居期間：2年間 (更新可)

物件数：31戸



移住支援住宅

入居対象者

▶ 移住希望者限定

入居期間

▶ 2年間

家賃

▶ 2DK：月額 23,000円 (4戸)

▶ 4LDK：月額 38,000円 (2戸)

物件数

▶ 6戸

中間管理住宅

入居対象者

▶ 移住・定住希望者

入居期間

▶ 2年間

家賃

▶ 月額 17,000円～ 38,000円

物件数

▶ 55戸 (令和5年度末)

中間管理住宅とは

空き家所有者と四万十町が賃貸借契約（12年間）を締結し、移住・定住希望者へ賃借する住宅



改修費用：1,000万円の場合

▶ 財源

- 国 費：500万円 50% 空き家対策総合支援事業補助金
- 県 費：250万円 25% 空き家活用促進事業補助金
- 過疎債：180万円 ※一般財源の75%⇒うち、70%は交付税措置
- 一 財：70万円

実質負担額約125万円





⑤ 移住定住各種補助制度の整備

移住促進

- ▶ 四万十町移住体験ツアー助成金 25千円/1人、50千円/1世帯
- ▶ 移住促進家賃支援事業補助金 15千円 × 12月
- ▶ 空き家活用（改修）補助金 上限1,824千円

定住促進

- ▶ 若者定住支援事業補助金 上限1,000千円
- ▶ 家族支え合い支援事業補助金 上限1,000千円

関連メニュー

- ▶ 町産材活用利用促進助成事業補助金 上限1,500千円
- ▶ 老朽住宅除却事業補助金 上限1,028千円
- ▶ 浄化槽設置整備事業補助金 ※上乗せ加算分含む . . . 最大1,388千円
- ▶ 就農支援補助金（新規就農／後継者支援／次世代人材投資／壮年就農）

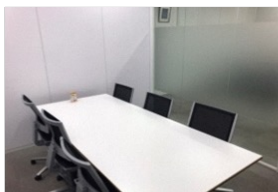
6 四万十町東京オフィスの運営

四万十町と首都圏のパイプ役を担うオフィスの開設

四万十町東京オフィスの意義

- ・これまでのしぐみに捉われない、横断的な情報発信を行う
- ・首都圏と四万十町を結ぶパイプ役
- ・将来的なアンテナショップ出店などの調査拠点
- ・首都圏ニーズのマーケティング拠点
- ・四万十町応援女子部の活動拠点

(株)ぱどは、事務局とし都内各機関とも連携しつつ、より四万十町に特化した情報発信を行う



【事務局としての役割】

- ①首都圏での関連施設の役割の明確化
- ②さまざまな地域での成功事例の調査、及びフィードバック
- ③首都圏での移住ニーズの把握、及び関連施設との情報共有
- ④四万十町Uターン促進のために、関係者同士の連絡補助
- ⑤四万十町の都内でのイベント情報などのスピーディーな発信
- ⑥各種打ち合わせスペースとしての活用 等、

四万十町応援店の開拓及び四万十町オフ会の実施

①四万十町応援店の開拓

四万十町応援店にご協力いただける店舗を開拓。応援店にはイベント広報や情報発信についての協力を要請。



②四万十町食材の紹介とメニューの開発

事前に四万十町産の食材を応援店舗に提供し、キャンペーンメニュー開発を行う。



③オフ会イベントの開催

イベントでは、四万十町の観光や特産品の紹介のほか、特産品を使ったスペシャルメニューの試食を行い、話題性を持たせます。参加者は四万十町(高知県)出身者、四万十町にゆかりのある人、応援女子部等を想定。



④SNS、フリーペーパーでの情報発信

オフ会イベント後には、参加した応援女子部のメンバーにSNSで拡散してもらうほか、四万十町関連のFacebookページを参加者にフォローしてもらい、イベントが一過性で終わらないよう、四万十町と接点をもち続けられる工夫を盛り込む。



四万十町ファンコミュニティの運用と情報拡散

①四万十町応援女子部創設

地域の魅力を発信する女性組織「ニッポン応援女子部」の中から、四万十町の魅力を発信するインフルエンサー「四万十町応援女子部」を20名選出。情報サイトやSNSでの情報発信、誌面モデルとして活躍していただく。

②四万十町応援女子部活動イベント開催

選出した「四万十町応援女子部」メンバーの発表を、四万十町東京オフィスの記者発表に合わせ実施。また、「四万十町応援女子部活動」と題し、広報活動や成果の共有を行うとともに、四万十町出身者との交流会を四万十町応援店で開催。

③応援女子部による四万十町取材ツアー

「四万十町応援女子部」が、四万十町の特産品や観光資源を発信するための現地取材を年2回実施。実際に現地に行った人にかかわらないリアルな目線で四万十町の魅力を掘り下げていく。※取材ツアー終了後に、行程ごとの良かった点、悪かった点を、報告書にまとめる。

④取材時のリアルな感想をWEB、SNSで拡散

現地取材ツアー実施時には、インスタを中心に一日平均5投稿程度/人程度の情報発信をしながらユーザーの興味関心を把握し、今後のPRにつなげる。また、インスタ、FBページなどを開設し、地元の人などにも投稿してもらえらる仕組みを構築し、移住情報サイトとの連動も図っていく。

⑤ラーラぱどへの取材ツアーレポート掲載

首都圏OLに人気のフリーペーパー「ラーラぱど」で、年2回の取材ツアーの様子をレポート形式で掲載。各回全4ページを使って四万十町を大々的に特集し、訴求していく。また、同レポート記事をWEB用に再編集し、ラーラぱどWEBに掲載するほか、移住情報サイトのコンテンツとして提供してもらう。

県外での四万十町ファンの発掘とつながりを継続する仕組みづくり

四万十町食材の販路拡大と四万十町の認知度UP

交流人口、関係人口の増加をはかり、将来的な人口増加、地域経済の拡大につなげる

⑦ 地域おこし協力隊制度の活用

地域おこし協力隊導入のきっかけ

四万十町の現状及び課題

- ▶ 少子高齢化の進行が著しい
- ▶ コミュニティの維持が困難
- ▶ 地域資源の有効な活用方法



導入後の効果

- ▶ 隊員が定住することによる人口増加
- ▶ 地域のリーダーとなれる人材の確保
- ▶ 地域資源の活用方法の提案



地域おこし協力隊導入状況 2

応募総数

199名

← 全国有数の応募者数

採用者数

66名

高知県内では佐川町に次いで2番目の多さ



理由

- ▶ 「四万十」というネームバリュー
- ▶ 協力隊自らが四万十町の魅力を発信するHPや
instagram、Facebookを開設
- ▶ 四万十町の魅力発信の取り組みによる効果

任期終了後の進路について

これまでに退任した協力隊 47名

四万十町在住の協力隊OB等 26名

その他、高知県内に定住したOB等 6名

▶企業等に就職した協力隊 16名

▶就農した協力隊 1名

▶起業した協力隊 8名

移動販売、鍛冶屋開業、ゲストハウス開業2名、移動動物園開業 他

▶その他 1名



四万十町の移住実績 1

[出典] 転入・転出者数

H23～24＝住基システム、H25以降＝住基年報（暦年）

※1 住基年報はH24まで年度集計のためシステムから集計

※2 H23は外国人登録を除く

👉 移住状況

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	累計
移住者数	15	18	37	27	45	73	190	177	140	160	189	1,069
うち県外	12	10	28	18	28	40	79	76	62	92	111	555
移住組数	7	9	17	17	26	46	125	132	116	119	140	752
うち県外	5	6	12	13	18	29	61	63	60	70	82	418
相談件数	50	102	134	555	701	195	227	195	200	206	275	2,840
うち県外	40	80	110	263	339	149	173	134	147	116	208	1,759
【参考】転入	422	451	469	369	484	476	429	440	372	402	345	4,659
転出	480	536	532	551	543	460	512	499	509	463	436	5,521
社会増減	▲ 58	▲ 85	▲ 63	▲182	▲ 59	+ 16 転入超過	▲ 83	▲59	▲137	▲61	▲91	▲ 862

👉 地域おこし協力隊受入実績 ※R3.04.01現在

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	累計
隊員受入者数	2	3	3	8	10	9	5	7	11	3	5	66
うち定住	—	2	2	8	2	3	3	6	—	—	—	26
うち活動中	—	—	—	—	—	—	—	1	10	3	5	19

四万十町の移住実績 2

H23～R2年度
移住実績（累計）

移住組数	754 組
移住者数	1,071 人
移住相談	2,840 件

移住相談

空き家調査
・情報発信

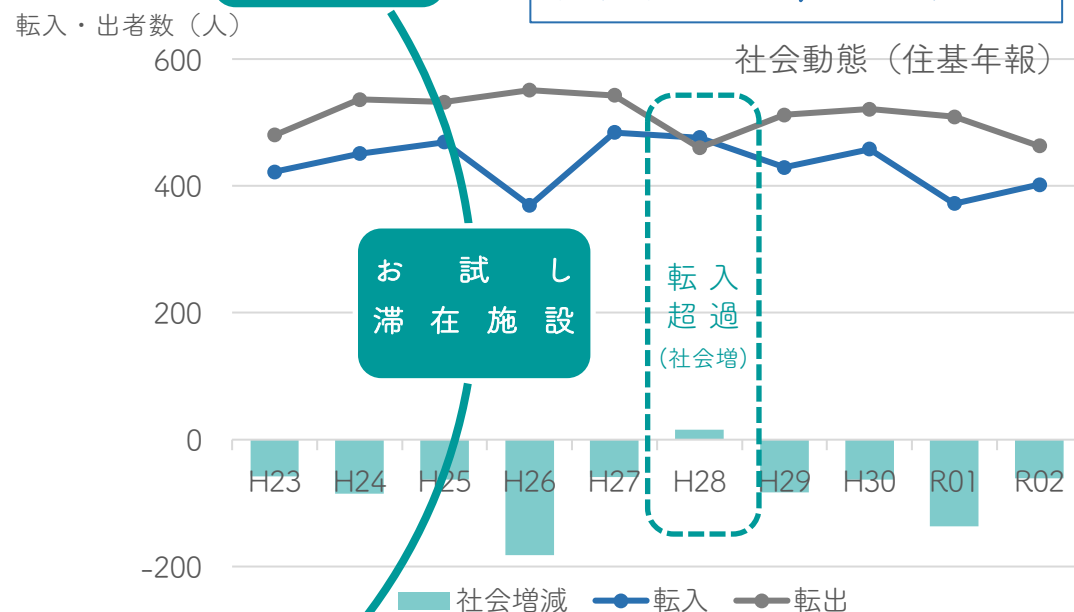
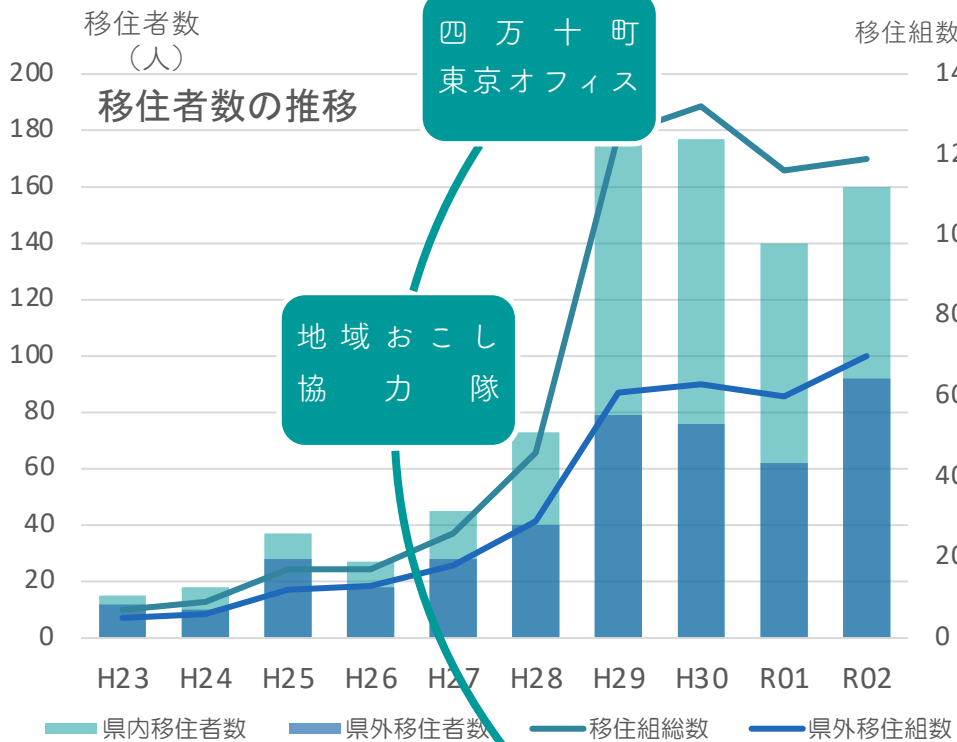
四万十町
東京オフィス

地域おこし
協力隊

移住定住
補助制度

移住支援
住宅

中間管理
住宅



プロモーションについて

「来てもらいたい人」に来てもらうために

町を知ってもらうための取り組みを進めましょう

まちを知ってもらうための取り組み

1. まちのプロモーションで柱となるキャッチコピーを決める

例：四万十町の場合

山 川 海 自然が人が元気です 四万十町



移住のススメ



「しあわせしまんとせいかつ」

暮らしなどがイメージしやすいキャッチコピーを！！

たよいものは たよいの海士町

島根県
隠岐国
海士町

「お役所仕事」と本品を絶対に混同しないでください。

製品名 生駒市役所の仕事

注意 以下に当てはまる方はエントリーしないでください。

- 机椅子一体型
- 思考停止型
- 終身雇用熱望型
- 税金泥棒型

まぜるな危険

警告!!

ヤケドの危険

応急処置

「お役所仕事」と混同してしまう場合は、予備知識もなく、経験不足で誤った対応が考えられ、大変危険です。

●安全・安心・心配だけを希望する人
●公務員試験の受験資格を希望する人

#生駒は違う

2020年4月1日採用予定
生駒市職員採用試験
※申込受付期間中
2019年4月1日 9時～4月8日 23:59

採用説明会
2019年3月16日 13:00～17:00
※申込受付期間中
会場 たけまるホール（隠岐生駒駅から徒歩3分）

生駒市 問合せ：市民課 生駒市役所 人事課 TEL 0743-74-1111（内線243）

広島県は観光資源が豊富なのに、全国にあまり知られていない。実に、おいしい。いつまでも「修学旅行でしか行ったことがない」県ではイカン。もっとたくさんの魅力を知ってもらうために、私の流儀で、ふるさを全国にアピールしてみせる。さあ、広島じゅうの「おいしい!」を、あなたへ。

たくさんの方が広島を訪れて「おいしい」が「おいしい」に変わる日まで。期待してほしい。

広島県観光大使 有吉弘行

おいしい! 広島県

瀬戸内ひろしままほ
oc-h.jp

#仕事メンディー
#通話が日常
#職場マジ沈黙

#検討しないけど「検討します」

#単純作業アモーレ
#企画力って何?

#相談事からBタッチ
#やりがいは二次

#だって自分ファースト

その公務員のイメージ、3分で覆します。

#生駒は違う

生駒市 職員採用

平成30年4月1日採用予定
生駒市職員採用試験
申込受付期間
平成29年4月1日 9時～4月16日 23:59

採用説明会
平成29年3月18日 13:00～17:00
会場 たけまるホール（隠岐生駒駅から徒歩3分）

生駒市 お問い合わせ：広島県 生駒市役所 人事課 TEL 0743-74-1111 内線 243 画面では先輩インタビュー

2. 「見せ方」を統一する



3. SNSを効果的に活用する

□Instagram

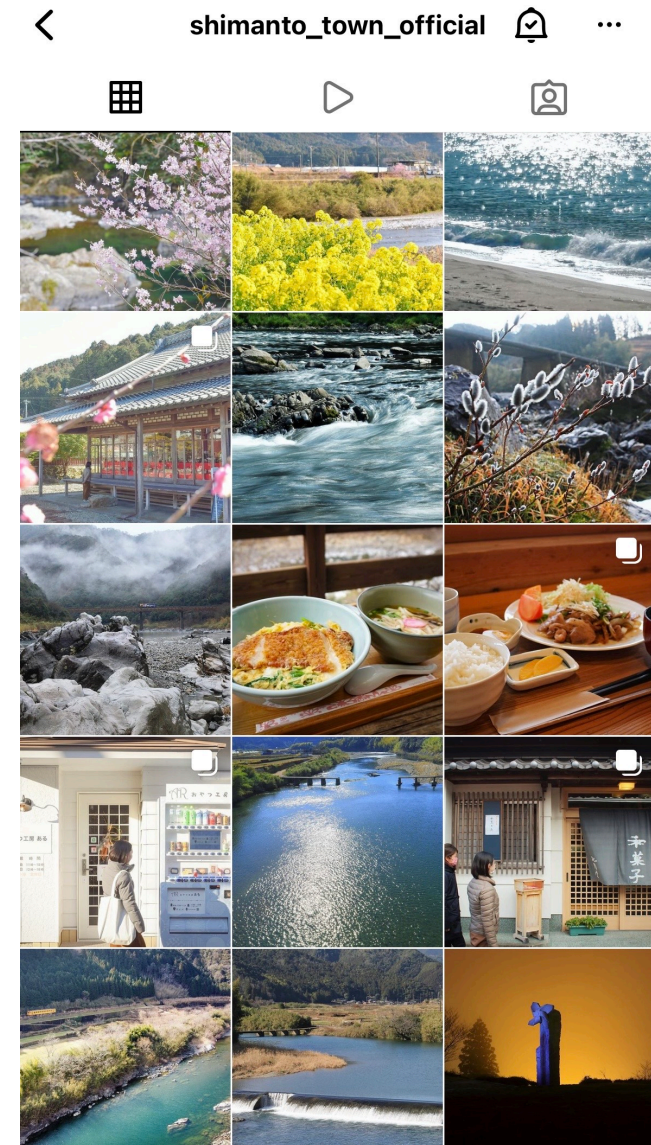
写真で魅力を伝えるツールとして活用

□Facebook

文章で情報を伝えるツールとして活用

～心がけること～

- ・定期的に投稿する
- ・惰性で投稿しない
- ・見せ方や書き方を統一する
- ・投稿内容に気持を込める



4. インフルエンサーを活用する



古性のち（こしょうのち）

1989年横浜生まれ。フォトグラファー・エッセイスト。BRIGHTLOGG,INC取締役。PR・写真講座・イベント企画・ブランディング・SNSのコンサルなど幅広く活動中。SNSが大好き。現在すべての総フォロワーは15万人ほど。共著に「Instagramあたらしい商品写真のレシピ」・2022年春に単著を発売予定。


— 02



SNS

 Instagram: @nocci_trip(1.4万フォロワー)

 Twitter: @nocci_84(10.7万フォロワー)

 Note: 古性のち(4.3万フォロワー)

次のことが一番大切です

1. 住居の確保（空き家の掘り起こし）

市町村職員からよく聞くこと

「移住施策を進めたいが貸すことのできる空き家がない」



できることから始めましょう！

例えば・・・

- ・固定資産税納付書に空き家募集チラシを同封する
- ・空き家調査を実施し「見える化」を進める
- ・マンパワーが足りないなら民間を活用する

2. 担当職員の意識の向上

“移住担当者の印象で町の印象が決まります”

- ・ 質問、疑問に答えられない
- ・ 町の魅力を伝えられない
- ・ 住む家や仕事の魅力を把握できていない。

移住業務に関わる方は誰よりも
町のことが好きであることが重要です

東洋町：人口2,151人

移住者が活躍できるまち（令和2年8人→令和4年44人）

- ・ 海の駅（道の駅）の駅長が移住者
- ・ 観光協会事務局長が移住者
- ・ 特定地域づくり事業協同組合の事務局長が移住者



職員がハブ的役割を担うことにより実現

- ・ 徹底的な空き家の掘り起こし
- ・ 住民との対話
- ・ 仕事の紹介
- ・ 職員自身が暮らしを楽しむ



ただ・・・

移住施策だけでいいの？

移住者1人獲得

転出者2人



ここが大事!!

人口-1人

転出者を減らす取り組みが サステナブルなまちづくりにつながる

子育てのこと

住居のこと

仕事のこと

etc...

移住者がどうして必要なのかを考える

人口減少に歯止めをかける

事業を継承してほしい

地域に活力を与えたい

そもそも人手不足



何から始めるべきか見えてくる

住みたいと思えるまちにしていけば
自ずと移住者が増え、残る人も増えます

ご清聴ありがとうございました

